

令和8年度 弘前大学農学生命科学部

市民公開講座

テーマ：青森県がこれからの温暖化にどう対応するか

日時：令和8年11月8日（日）

13:30～15:00

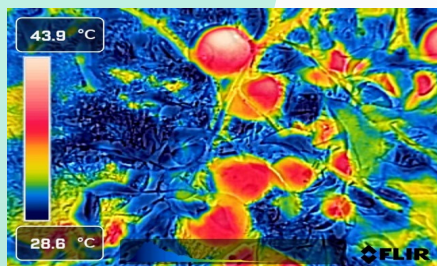
場所：弘前大学農学生命科学部3階 330講義室

事前申込不要・入場料無料です！ どなたでもお気軽にご参加ください。

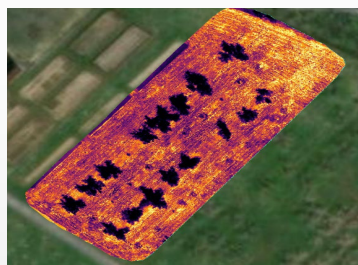
演題1：リンゴ栽培での温暖化対策

講師：農学生命科学部国際園芸農学科 教授 張 樹槐

概要：温暖化によるリンゴの日焼け果や品質低下に対応するため、ドローンで果樹園内の日焼けリスクを把握し、センサーやICTを活用した果実の品質管理など、スマート農業による省力化と安定生産の技術開発を進めています。



サーモカメラによるリンゴ果実表面温度の測定

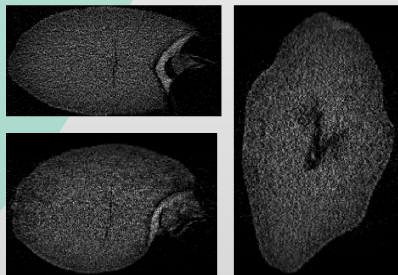


ドローンによるリンゴ園地内の温度分布可視化

演題2：イネ新品種開発

講師：農学生命科学部食料資源学科 教授 石川隆二

概要：いま青森では冷害ではなく温暖化被害が著しい。夏の気温上昇により、青森県のコメの品質が劣化して、例年90%を超える一等米比率を2023年には68.9%とさせました。この被害を軽減できる耐性イネ品種を開発しました。



イネ胴割れ部分のCT-Scan。
玄米内部に空洞がみられる。



まっしぐらと耐性品種（左から弘大ライケット1号、次世代の高度胴割れ系統、7T-S、青森県育成系統、耐性品種、恋ほのか）。

問合先：弘前大学農学生命科学部 地域連携推進室

電話：0172-39-3758 e-mail：renkei@hirosaki-u.ac.jp